

踏切の安全対策を



質問者
齋藤 永 議員

後をたたない踏切での

死亡事故を減らすため、国主導で鉄道会社と自治体に安全対策を義務付ける改正踏切道改良促進法が可決されました。「安全性に問題がある」と国が指定した場所は、暫定処置として立体交差の新設などの対策をとらなくてはならないとされています。

当町でも、小田急線内では2か所指定される可能性がありますがある踏切がありませんが、連続立体交差など長期の工事を実施する場合は、2020年度までに改良計画を策定することとなっています。また、このことを考える場所として、国が参加する協議会を設置できるように

なっています。危険踏切の改良、安全対策をどのようにお考えですか。

A

安心して渡れる踏切にします

回答 (町長)

当町の踏切は、町道7路線、県道2路線で、小田急線に4か所、御殿場線に5か所の全部で9か所です。

新松田駅前にある小田急線渋沢14号踏切は、今年度から平成30年度末までの3か年で策定する新

松田駅周辺のまちづくりマスタープランの中で、県の事業として検討を進めていただいているJR御殿場線のガードの改良や、隣接しているこの踏切の安全対策を考慮する。

そのあり方についても、重要な課題として、神奈川県、小田急電鉄、JR東海と昨年発足した「まちづくり協議会」や交通関連の作業部会において計画策定の進捗に合わせて検討していく。

今年度は、町道19号線町屋踏切、町道23号線小田急線渋沢11号踏切の接続部分の部分を予定し、安全性の向上と交通の円滑化を図っていく。



混雑する小田急線新松田駅前の踏切

滋賀県多賀町が当町議会を視察

7月14日に、多賀町議会の議会広報常任委員会委員5名と議会事務局長が、松田町議会を視察研修に来町され、中野副議長が歓迎の挨拶をし、議会広報広聴常任委員会の利根川委員長・田代副委員長が説明をして、両町の広報広聴について意見交換を行いました。

多賀町の概要

多賀町は、三重県と岐阜県の両県と県境を接した滋賀県にあり、日本の琵琶湖の東部の彦根市と米原市の隣の町である。

人口7639人・世帯数2755世帯・町の面積は、135.93km²でその85%は森林地帯である。自然にあふれ、町内



意見の交換をする両町の議員

にある多賀大社には、年間150万人もの参拝客があるという。

滋賀県内には50を超える市町村があつたが、平成の大合併により半減した。多賀町は、この合併には参加していない。その理由は、工業団地があり、そこからの固定資産税収入は10億円を超え、関西地方では、裕福な財力を持つ町である。

議会TV放映を実施

多賀町の議員定数は12名、常任委員会は、総務・産業建設・議会広報の三つに分かれ、特別委員会では、議会改革特別

委員会が開かれた議会を旨とし、議員定数や議員報酬の検討・議会のテレビ放映を進めている。特に、庁舎ロビーのテレビの議会放映には、一千万円の費用をかけて実施した。執行側・議会側も常に緊張感にあふれ、町政に真剣に取り組み姿が町民に伝わっているという。

今回、松田町議会に視察研修に来町された多賀町議会は、年4回の定例会では、議長を除く全議員が一般質問を行い、少子高齢化対策、農林業・商業の再生、防災、財政と多方面にわたり、執行側と熱い論議が、議会広報紙や議会放映及び委員会の活動から伝わり、行動する議会・より開かれた議会運営が、今後の松田町議会の活動に役立つ意見交換ができた。

多賀町議会議員の活動に敬意を表する次第です。

(記・利根川 茂)

一般質問は、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。